

大前経営塾第41/42期 カリキュラム予定 (2022年4月1日/10月1日開講)

	現代の経営戦略 映像教材+Webディスカッション		新しい能力を身につける 書籍または映像教材+Webディスカッション		Real Time Online Case Study Webディスカッション+映像教材	大前研一ライブ 映像教材	経営者講義 映像教材+Webディスカッション	
	テーマ(予定)	内容	テーマと内容				テーマ(予定)	
1ヶ月目	オンライン化する世界 ～全てのビジネスがオンライン化する時代の経営戦略とは～	米中貿易戦争やコロナウイルスの感染拡大により世界経済が停滞し、調達、生産、販売などの企業活動に多大な影響を与えている。また、移動の自由が制限されることにより、個人のライフスタイルにも変化が出てくることが予想される。そのなかで、5Gの商用サービスが各国で開始されつつあり、企業にはビジネス活動のオンライン化の流れが加速している。世界経済の先行きが透明ななかで、すべてがオンライン化する時代に、企業は巨大化する見えない大陸でいかに生き残ればよいのか、検証いたします。	情報収集力 経営者としての意思決定をするためには、的確な情報収集が必要です。情報収集の手段としてのGoogleの活用など具体的な手法を学びます。				京セラ株式会社 名誉会長 福盛 和夫	
2ヶ月目	経営とUX ～デジタルトランスフォーメーションの中核はUX	お客さまがデジタル空間で情報を収集し、購買を行い、サービスを楽しむ機会は日々増加しています。そして、アマゾンやグーグルのように、この変化を捉えた新興企業が誕生し、日本においても影響力を高めてきています。これからは、好む好まざるに関係なく、デジタルへ適応できない企業は退場を余儀なくされるでしょう。デジタルが当たり前になったポスト工業化時代において、経営者は社会変化をどう捉え、どう対応していくべきかを事例を交えてながら解説します。	質問する力 本質的な問題発見にあたって、経営者として、どのように問題を捉えていくのか、その鍵となる「質問する力」を身につけます。				松下 幸之助 ※書籍を利用	
3ヶ月目	FinTechの新潮流	新型コロナ禍を機に世界でFinTechの普及・進化が加速しています。接触機会の減少やECの増加により多様な決済サービスが登場し、また、デジタル通貨、暗号資産、NFT、デジタルバンク・ネオバンク、Bank as a Serviceなど新しいサービスが誕生し、進化しています。FinTechの進化によって、経済社会にどのような影響があるのか、企業にはどのようなビジネスチャンスやリスクがあるのか、国内外の事例を交えて検証いたします。	ロジカルシンキング/考える技術 意思決定にあたって、経営者としてどのように問題点を捉え、どのようなアプローチで解決策を考え、決定を下していくのか、事実をベースに論理的かつ創造的に問題を解決していくアプローチを身につけます。				未来学者 アルビントラー	
4ヶ月目	モビリティ革命 ～日本企業が大変革期を勝ち抜く条件とは～	自動車業界は今、「100年に一度」の大変革期に突入している。環境規制、デジタル技術の普及、利用形態の変化等により自動車をはじめ、移動手段のすべてに変革の波が押し寄せている。既存の業界構造や自動車会社のあり方が根本的に変わらねばならず、日本の製造業を支えてきた自動車産業はどうあるべきか、異業種にはどのようなビジネスチャンスがあるのか、検証致します。	議論する力 グローバル化が進む中、世界の共通言語であるロジックを前提とした「議論する力」を身につけます。そのうえでより高次の問題解決につながる議論のスキルについても学びます。				ユニ・チャーム株式会社 ファウンダー 高原 慶一郎	
5ヶ月目	生産性を高める経営 ～企業はいかに「稼ぐ力」を高めていけばよいのか～	いま、少子高齢化、労働力不足、ライフスタイルが多様化するなかで働き方のあるべき姿について議論が盛んであるが、それらの多くは論点がずれている。本来あるべき働き方とは何か、また企業はいかに生産性を高めて行けばよいのか、国内外の事例から検証いたします。	構想力 2045年頃に到来するとされるシンギュラリティを前に、いまやAIやロボットが本格的に社会・産業・生活に普及し始めている。定型業務がコンピュータやロボットによってどんどん自動化されていく中で、いかにプラスアルファの付加価値を提供できるかが、ビジネスパーソンのとして生き残りの鍵になるが、そのために必須となる能力が「構想力(KOUSOU)」である。「構想力」とは何か、どのように身に付ければよいのか検証いたします。				ソフトバンク株式会社 代表取締役社長 孫 正義	
6ヶ月目	社内起業家を生み出す経営 ～いま一番必要なイントラプレナーを生み出す仕組みとは～	経営環境が劇的に変化するなか、企業内において新規事業を構想・創造する人材「イントラプレナー」に注目が集まっていますが、実際には思うようにイノベーションが進まない、新規事業を創出できる人材が少ない、という課題に多くの企業が直面しています。企業が生き残りかけた激しい競争に勝ち抜き、次の成長を達成するためにはイノベーションや新規事業の創出には必要不可欠ですが、企業はどうやってイントラプレナーを生み出して行けばよいのか検証致します。	0から1の発想術 現在の社会は、個人個人の創る富を生み出したアイデアが、世界経済に極めて大きな影響を与え、「一個人のイノベーションによって変化する世界」であるといえます。その中で、ビジネスマンが生き抜くために必要な最大のスキルである、「0から1を創造する力」、「無から有を生み出すイノベーション力」を身につけるための「15の発想術」について学びます。		与えられた情報だけを用いて行うケースメソッドと異なり、情報収集や分析を自ら行い、解決策についての議論をクラスメイトと協力しながら行っています。また大前研一による講義解説から経営戦略の要諦を学びます。	過去1週間!に起きた日本・世界のニュースの中から大前研一がピックアップ、独自の視点で解説する講義です。政治・経済・企業経営に関する最新動向を学ぶことができます。	ケニア・ナッツ・カンパニー 創業者 佐藤 芳之	
7ヶ月目	日本の経営者の課題と対策 ～企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、いま日本の経営者はどうあるべきか～	近年、企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、日本の伝統のある大手企業が次々に経営破綻の危機を遡り、大膽な最終赤字を計上する事例が増加しています。時代の変化を捉えられていないだけでなく、そこにはサラリーマン化する経営者の資質、能力、後継者選定などのコーポレート・ガバナンスの問題、が指摘されている。いま日本の経営者の何が課題なのか、どうあるべきか検証いたします。	低欲望社会「大志なき時代」の新・国富論 将来への不安感が蔓延し、若者の欲望が減衰している今の日本では、政府の経済刺激策は効果が期待できません。凍てついた消費者の心理を溶かし、「縮み志向」の経済を転換させるビジネスチャンスはどこにあるのかを検証します。		このリアルタイム・オンライン・ケーススタディ(ROCS)を行うことで、経営者として直面するであろう、あらゆる問題についての考え方や、経営判断能力を鍛えることができます。	株式会社オプティム 代表取締役社長 菅谷 俊二		
8ヶ月目	脱炭素社会におけるエネルギー新潮流	いま、世界はエネルギーの大変革期に突入しています。石油をはじめとした石化エネルギー中心の需給構造から、低炭素、分散、デジタル化へと「パラダイムシフト」が加速しています。日本は、こうしたエネルギーの新潮流に対していかに取り組むべきか、企業にはどのようなビジネスチャンスがあるのか、国内外の事例を交えて検証致します。	ハイコンCEPT (ダニエル・H・ピンク 著) トブラーは第三の波を情報化社会と呼んだ。では第四の波は何か。それは「コンセプチャル社会」である。新しいコンセプトをいかににつくり出して世の中に提示できるか、ビジネスリーダーに求められるクリエイティブを学びます。				株式会社サイバーエージェント 代表取締役社長 藤田 晋	
9ヶ月目	新興国のデジタルシフト最前線	近年、デジタル化の進展によって規制や既得権益者が少ない新興国から、ITを武器に世界で通用するサービスを開発・提供するユニコーン企業が数多く誕生しています。スマホやタブレットの普及により中国のインターネット経済規模はユニコーン企業を輩出する絶対条件でもはやなくなりつつあります。いま新興国で何が起きているのか、日本はこの新しい潮流から何を学び活かせばよいのか、検証致します。	クオリティ国家という戦略 中国などの工業国・巨大経済を持つ「ボリューム国家」の台頭により、「加工貿易立国ニッポン」は出口の見えない隘路に入り込んでいます。日本が今後、21世紀を勝ち抜くために必要な「クオリティ国家」の概念について学びます。				ナイキ 創業者 フィル・ナイト	
10ヶ月目	世界、日本の政治、経済状況分析と今後の経済見通し	1年間の国内外の政治・経済動向を整理し、新しい年に向けての日本企業の経営課題を総括・検討します。	新・資本論～見えない大陸へ挑む～ 「Invisible Continent(見えない大陸)」とは、現在大変革が繰り返されている新たなビジネスの舞台である。その新大陸で成功を収めるための戦略とヒントを学びます。				株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井 正 ※書籍を利用	
11ヶ月目	世界経済を牽引するテクノロジー大国 インド	インドは今やユニコーン企業数やスタートアップ資金調達総額等の指標において米中に次ぐ世界3位のスタートアップ・エコシステムの規模を誇っている。また「リープフロッグ」により、AI/データ系・シェアリング・社会問題解決型など先端の技術やビジネスモデルで日本の先を行く学ぶべき事例が多い。そして「BOP・オフショアターゲット」から、「世界のR&D・イノベーション発掘ターゲット」へと変貌・高度化している。本講義ではインドのスタートアップ/テクノロジーの概況を解説するとともに、日本企業が学ぶべきインド企業との関わり方、ビジネスモデルを解説する。	「リーダーの条件」が変わった 大震災、原発事故、戦後日本が初めて経験する、先が見えない時代。このような環境で求められているリーダーシップとは何かを学びます。				エムスリー株式会社 代表取締役社長 谷村 裕	
12ヶ月目	日本企業のキャリアパス問題とあるべき姿	20世紀の経営資源は「人・モノ・カネ」でしたが、21世紀の成功の鍵は「人・人・人」です。経営者が社内の人事制度の改革やシステム作りにも多くの時間を使っている会社は、良い会社になる可能性が高くなる一方、残念ながら日本企業の大半はそうではないのが実情です。世界的な人材競争がますます激しくなるなか、問題を解決できる「余人をもって代えがたい人材」とつながり、彼らの能力を引き出し成果を上げていくために、日本企業のキャリアパスはどうあるべきか、検証いたします。	50代からの選択 充実した人生を送るためには30代、40代から第2の人生をどう生きるか準備を進めるべきです。そして50代は行動に移す旬。今までの自分の生き方を、すべてリセットし、どのように新たな生き方の準備をするのかを考えます。				オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長 高島 宏平	

※テーマは変更になる可能性があります。